

ヒグマの会 40 周年記念事業「北海道のシンボル、ヒグマ～共存への道のり～」
小冊子「ヒグマ・ノート～ヒグマを知ろう～」とポスター「となりのヒグマ」の完成報告

ヒグマの会

1979 年に創設されたヒグマの会が 2019 年に 40 周年を迎えました。この機に、北海道における人とヒグマの適切な関係を広く市民の皆様にご存知いただくために 1 年をかけて様々な事業を実施しました。その目的は、1) ヒグマを北海道のシンボルに掲げる世論を盛り上げること、2) ヒグマによる人身事故を減らすための安全対策について正しい知識を普及すること、でした。本事業により、いかにヒグマが北海道のシンボルに相応しい動物であるかを市民と共有することができ、さらに北海道の豊かな生物多様性の一構成員であるヒグマのユニークな生態や、どうすればヒグマによる人身事故を回避できるかについての正しい知恵や知識を市民に浸透させることができました。事業としては、ヒグマの会 40 周年記念イベントを 2019 年 12 月 8 日（日）に札幌エルプラザにて次のような内容で実施しました：1) 小菅正夫（札幌市円山動物園・参与）氏と本田優子（札幌大学・教授）氏による縦横無尽トーク 2) ホラネロによるクマ笛を使った音楽コンサート 3) 「となりのヒグマ」や「MIKIO ジャーナル傑作選」など短編映画 5 本のヒグマ・フィルム・フェス 4) ヒグマ専門家 5 名によるクマの語り部ミニレクチャー 5) 林家とんでん平氏による HIGMAX 落語 6) 北海道のシンボル動物道民投票 などでした。また、2019 年 10 月と 2020 年 2 月にもヒグマ映像・ミニ解説やヒグマ・トランクキットの展示・解説など継続事業を実施しました。さらに、（一財）前田一歩園財団自然環境保全活動助成金を活用して、市民向け普及啓発用小冊子（パンフレット）とポスターを制作しました。今後、これらを活用して、札幌市および道内各地域の小中学校などの教育現場や動物園・博物館などの公共施設においてヒグマの生態や安全対策について正確な情報を普及し、人身事故を減らす術や方法を啓発していきます。

○小冊子「ヒグマ・ノート～ヒグマを知ろう～」A5 判、表紙含め 36 ページ、2000 部
内容：・ヒグマのかたち・ヒグマの一生・ヒグマの四季・ヒグマのたべもの・ヒグマの行動範囲・ヒグマにナワバリはない・ヒグマによる農業被害・里に近づくヒグマたち・ヒグマによる事故・ヒグマから身を守る・それでもヒグマに出会ってしまったら？・ヒグマの数と分布・ヒグマの数を調べる・世界の中のヒグマ・ヒグマの会について

○ポスター「となりのヒグマ」A2 判、1500 部

内容：ヒグマは街のすぐそばで暮らしているので、ヒグマに関する知識を持って、適切に対応することが肝要であることをビジュアル的に提示する。

いずれも数に限りがありますが、可能な範囲で提供いたしますので、ヒグマの会事務局（higuma.no.kai.1979@gmail.com）までご連絡ください。

ヒグマ・ノート



発行日：2020年3月31日
 発行：ヒグマの会
 事務局（事務局員：佐藤喜和）
 〒069-8501 北海道江別市文京台5丁目582 釧路大学
 農林環境学部環境共生学局 野生動物生態学研究室内
 E-mail: higuma.sakai.1979@gmail.com
 URL: http://higuma1979.sakura.ne.jp/
※この冊子は作成にあたり、前日本環境保全活動助成会の支援を受けました
 ※本書の内容の一部を無断で別の著作物等に転載してはなりません

ヒグマを知ろう ヒグマ・ノート

ヒグマの会

ヒグマから身を守る

#クマ鈴 #STOP熊やり

ヒグマはこわい存在ですが、むやみにおそってくるわけではありません。ヒグマの事故から身を守るには、まずは出会わないこと。そのためには何に気をつけたらよいでしょうか。

1 ヒグマと急に出会わないための3ルール

人身事故を避けるには、ヒグマと急に出会わないことが一番大事です。そのためのポイントは3つ！

音を出す

鈴や鈴子で人が近づくとヒグマに知らせます。人に気づいたヒグマはたいがい離れていきます。母グマは子グマを連れて身を隠す余裕ができるので、「バツクリ運送」や「クマを守る攻撃」を聞くことができます。



複数人で行動する



人が多いと話し声や物音がヒグマが気づきやすくなります。また、人が集まっていると、ヒグマも近寄りづらくなります。もし攻撃された場合も、助けをよべるので深刻な事故になりづらいのです。この30年間、同行者がいたときの死亡事故は起きていません。

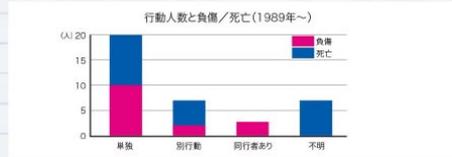
周囲の様子に気を配る

笛音の音やにおいにも気を配り、動物の死体におい（血や腐った肉におい）がいたり、藪の中からガサガサ音がしたりするときは近づかず引き返しましょう。フンや足あとにもヒグマがいるサインです。



2 一人だと事故に遭いやすい

平成以降（1989年～2019年）で死亡事故になってしまったのは、被害者が単独行動だったり、仲間と離れ一人だったりした場合（別行動）でした。



でも、最近のヒグマは鈴などの音に気づいてくるんでしょう？

ヒグマは人間をエサとか敵だとは思っていないので、鈴などの音に気づけばふつうは避けてくれます。ただし、生ゴミを食べたり歯づけされたりして、人と食べものをむすびつけてしまったクマは、逆に寄ってくるかもしれません。ゴミのポイ捨てやジュースをこぼすなど、ヒグマに「おいしい味」を教えないことがみんなの安全につながるのです。



人間がきた子！ちょっとはなれよう

森に行くときはきやかに歩いて、自分がいることをヒグマたちに知らせましょう

このポスターは(一財)前田一步園環境保全活動助成により制作されました。



裏の
公園林に

じつは近くに
住んでいる



うちの畑に



捨てた
ゴミにも



あっちの国道で



山菜採りのときに

ヒグマのとなり

ちゃんと知って
じょうずにこっしょに
糖いんいす



知らないから
コワイ?
だから知ろう!
ヒグマのこと!

ヒグマは「北海道のシンボル動物」、静かな森の隣人です。
大きく力強い生きものですが、むやみに人を襲うことはありません。
「ヒグマの会」はヒトとヒグマ、人間と自然のよりよい関係をめざしています。
ヒグマの生態や安全対策を解説した「ヒグマ・ノート」を配布しています。
お申込みは higmax7@gmail.com へ。



ヒグマの会 事務局連絡先
〒069-8501
北海道江別市文京台練町582
酪農学園大学農食環境学群環境共生学類
野生動物生態学研究室 内(佐藤 善和)
✉ higuma.no.kai.1979@gmail.com

